

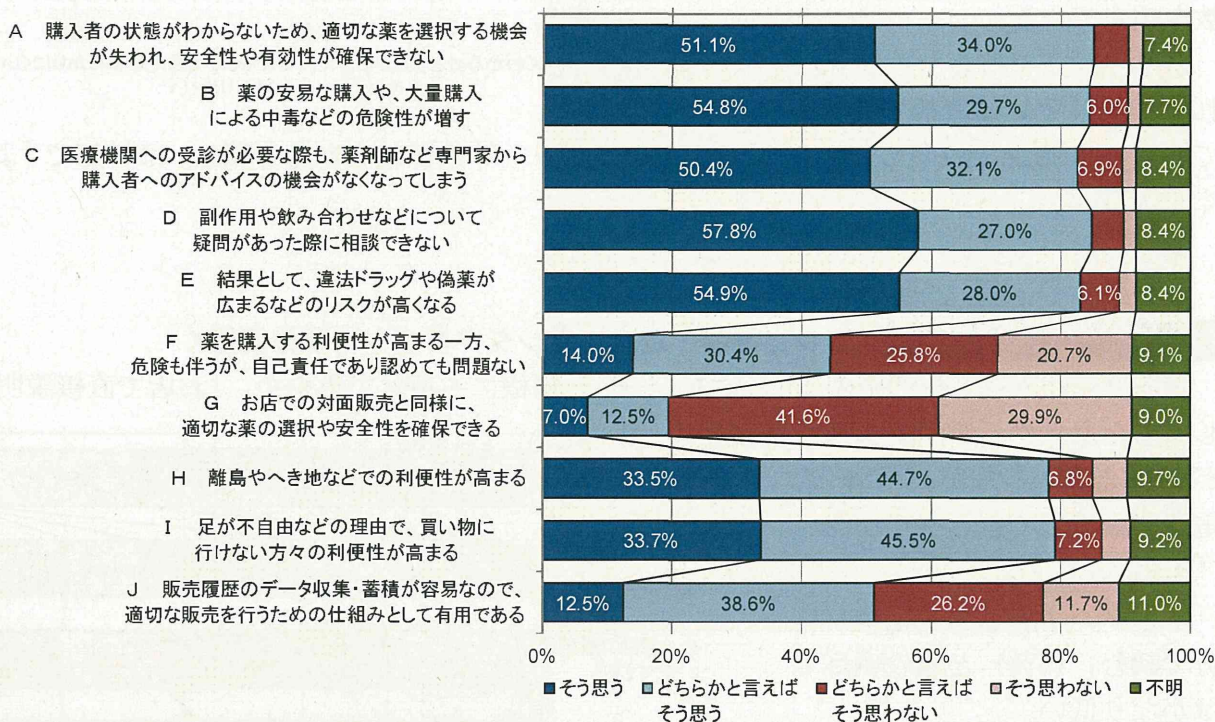
## インターネットでの薬販売について（問 20～21）

### インターネットでの薬販売 安全性や有効性確保できない「そう思う」半数

薬のインターネットなどによる販売について、10項目で考えを聞いた。

「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計で最も高かったのは「購入者の状態がわからないため、適切な薬を選択する機会が失われ、安全性や有効性が確保できない」の85%で、農・林・漁業で「そう思う」が61%と高め。同列の2番手は「副作用や飲み合わせなどについて疑問があったときに相談できない」が85%で、「そう思う」は最多の58%。

「離島や僻地などでの利便性が高まる」と「足が不自由などの理由で、買い物に行けない方々の利便性が高まる」はともに「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計が8割近くに上る。



### インターネットで薬を購入したいか

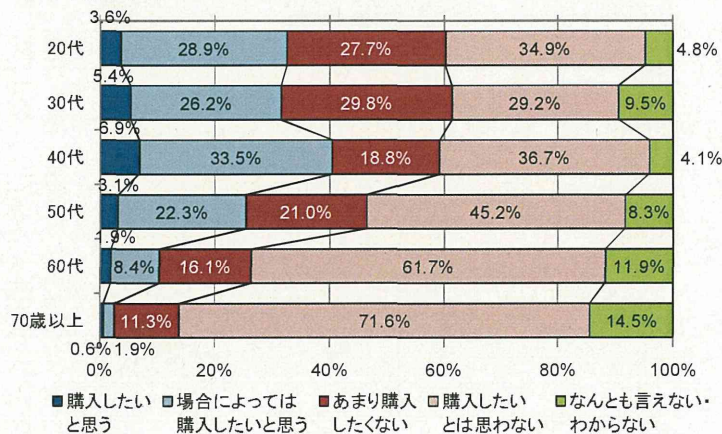
### 「購入したいとは思わない」52%

インターネットなどによる販売を通して、薬を購入したいと思うか尋ねたところ「購入したい」は3%で、「場合によっては購入したいと思う」の17%と合わせて約2割にとどまり、過半数の52%が「購入したいとは思わない」と回答した。

年代別では40代で「購入したいと思う」「場合によっては購入したいと思う」の合計が最も高く4割を超える。一方高齢層では否定的な評価が高く、70歳以上で「購入したいとは思わない」「あまり購入したくない」が合わせて8割以上に上る。

村部で「購入したい」「場合によっては購入したい」合わせて15%と低め。

#### ◆年代別では



### Ⅲ インターネットによる薬の購入方法に対する世論

坂井博通

#### はじめに

2013年1月に厚生労働省が省令で禁止している一般医薬品のインターネット販売について、最高裁が事実上解禁する司法判断を示した。以降、一般用医薬品の購入方法や分類の議論が盛んになっているが、どちらかといえば、医薬品を販売する側からの議論が多く、消費者側の議論はあまり行われていない。

現在、一般用医薬品は店舗での販売や配置による販売の他、インターネットやテレビによる通信販売などによっても販売されている。消費者の安全を守るという観点からは、消費者が購入経路によらず確実に安全な医薬品を入手できることが極めて重要である。また、一般用医薬品の入手可能性の増大はセルフメディケーションを図る国民にとっても重要な課題である。

本論文は、インターネットによる通信販売の課題を把握し、さらなる議論の基礎資料を提供することを目的とする。

#### 先行研究

消費者の一般用医薬品の利用に関しては、近年3つの調査研究がなされた。

1つめは、三菱総合研究所が2010年12月に行った『一般用医薬品の適正使用情報入手状況等調査』である。この調査は、インターネット調査(1万人)と郵送調査(1000人)を並行して行ったものである。そして、インターネット調査対象者と郵送調査対象者の属性にあまり差がないと判断して、対象数が多いネット利用者を中心に上記課題に関して分析を行っている。しかし、その分析枠組みは、本来ならばまずランダムサンプリングを行った郵送調査の中でのインターネット利用者と非利用者の比較を行うべきであるが、その比較はなされていない。また、インターネット対象者と郵送調査におけるインターネットを利用しない一般人の比較もなされていない。郵送調査においてネット利用者は約40%程度であったが、この分析枠組みでは、非ネット利用者と比べてのネット利用者の特性が抽出されず、結論が曖昧である。

また、東京都が2011年1~2月に『一般用医薬品に関する都民の意識調査』を行った。こちらは、ネットでの一般医薬品購入を具体的に2.5%と特定しているが、その数字が、実態を示すのか予定や習慣を示すのかという点に曖昧さが残る。

岸本桂子、吉田武史、福島紀子は、2009年3月にインターネットを通して「インターネットによる一般用医薬品購入に関連する要因についての研究」を行っている。サンプルは40000人を超える大掛かりなものである。それによれば、インターネットを通しての一般用医薬品の購入率は11.9%であるとする。また、ネット利用による医薬品購入は、他の一般物品の購入との相関が非常に高いことを見出している。しかし、本サンプルの特殊性の限界と一般性に欠けることを述べている。

ところで、どの調査も分析単位が「個人」にあるのか、「購入行動」にあるのかについての明瞭な区別に欠ける。たとえば、ヘビーネットユーザーが、ネットではなく一般的な購買行動をとって、薬局で対面的に購入して副作用が出た場合などには、単にネットユーザーの行動として恣意的に分析される可能性があることなどである。「個人」から見た場合か「購入行動」から見た場合かを峻別しなければ割合や率の特定は困難である。

内閣府は、内閣府において最も代表的な世論調査に関して、調査方法を比較検討して以下の報告を行っている。「世論調査におけるインターネット調査の活用可能性～社会意識について～(平成21年1月)」「世論調査におけるインターネット調査の活用可能性～国民生活に関する意識について～(平成21年6月)」。そこでの結論は、ネット調査と一般調査では結果が大きく異なり、ネット調査はまだ一般調査の代用にはならないとするものである。

よって、議論の焦点となっている2類の医薬品に関する購入実態とその利用、副作用などについては、これまでの調査研究では、不確かな部分が大きいと評価できるだろう。

したがって、ネット利用による一般用医薬品の購入実態や非ネット利用者を含めた一般人の中でのネット利用の位置づけを行う際には、さらには、一般人の意識と有識者(たとえば薬剤師)の意識との異同を検討するには、従来のランダムサンプリングによる社会調査(面接調査や郵送調査)を行うべきであると考えられる。

本調査は、長野県を対象としたランダムサンプル調査であり、その結果については、本報告書を見てもらうことにし、本報告では特に、一般世論を中心に分析を行う。

## 医薬品のインターネットなどによる販売についての意見

問20の10問が医薬品のネット販売についての意見を尋ねたものである。そこでその10問に対して因子分析を行った。その結果2つの因子が抽出された(主因子解、バリマックス回転)。表1にあるように因子1の因子負荷量の大きな5問は「リスク認識」因子、因子2は「利便性認識」因子と名付けられよう。そこで、この結果を利用し尺度可能性を検討した。その結果、「リスク認識」尺度で Cronbach  $\alpha$  =.84、「利便性認識」尺度で Cronbach  $\alpha$  =.76であった。

尺度間の相関は負の相関(-.31)であった。つまり、リスク認識が強い人は利便性認識が弱く、リスク認識が弱い人は利便性認識が強いということである。

表 1 因子分析結果

質問	因子	
	1	2
問 20-A 購入者の状態（顔色などの身体状況）がわからないため、適切な薬を選択する機会が失われ、安全性や有効性が確保できない	.729	-.166
問 20-B 薬の安易な購入や、大量購入による中毒などの危険性が増す	.746	-.141
問 20-C 医療機関への受診が必要な際も、薬剤師など専門家から購入者へのアドバイスの機会がなくなってしまう	.733	-.102
問 20-D 副作用や飲み合わせなどについて疑問があった際に相談できない	.685	-.127
問 20-E 結果として、違法ドラッグや偽薬（にせ薬）が広まるなどのリスクが高くなる	.640	-.151
問 20-F 薬を購入する利便性が高まる一方、危険も伴うが、自己責任であり認めても問題ない	-.213	.447
問 20-G お店での対面販売と同様に、適切な薬の選択や安全性を確保できる	-.257	.410
問 20-H 離島やへき地などでの利便性が高まる	-.056	.790
問 20-I 足が不自由などの理由で、買い物に行けない方々の利便性が高まる	-.015	.849
問 20-J 販売履歴のデータ収集・蓄積が容易なので、適切な販売を行うための仕組みとして有用である	-.136	.592

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

よって、この 2 つの尺度を用いて、一般用医薬品のインターネット販売に対する認識を検討することにする。

## 結果

### 結果1 クロス集計

世論に影響を与える可能性がある独立変数として次の7つの変数を考えた。

地域（市町村）

性別

年代

健康状態

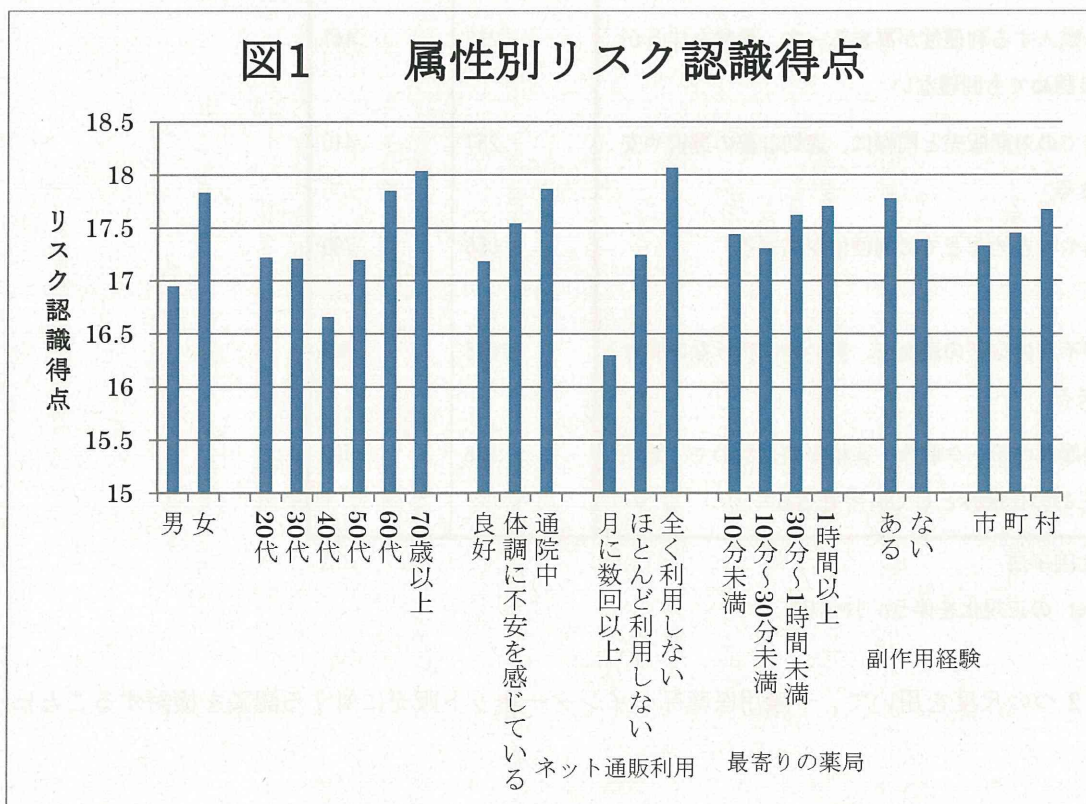
ネット販売の利用状況

薬局やドラッグストアまでいくのにかかる時間

副作用経験の有無

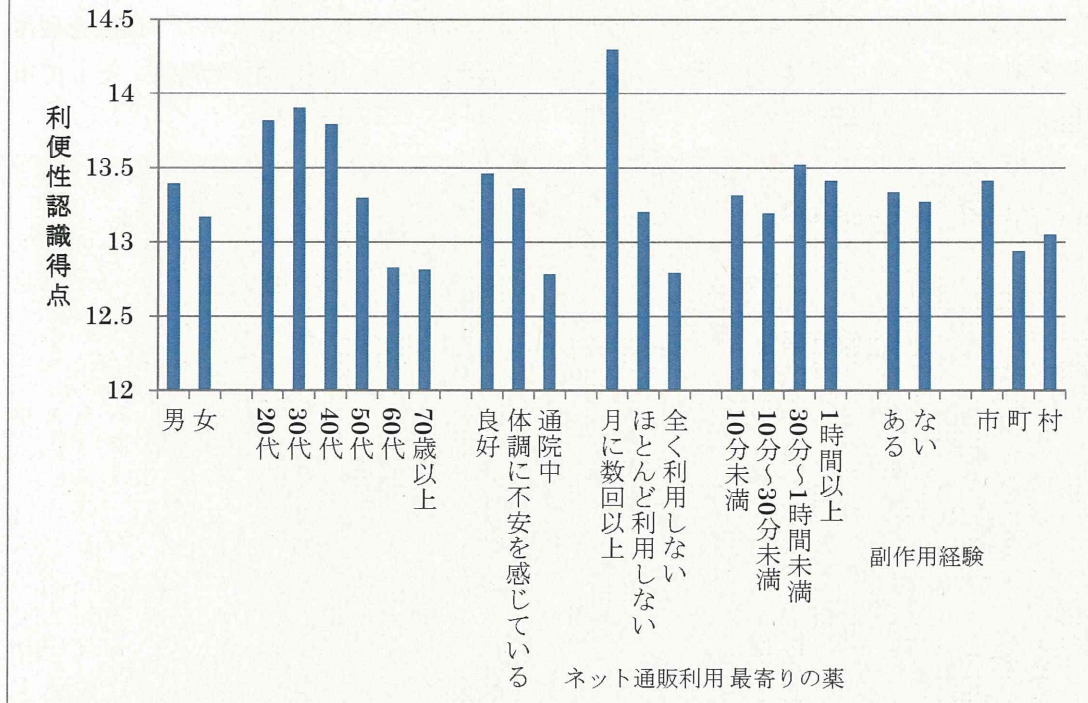
特に、本調査では村部のサンプルを多くとって検討した。それは、山間部にネット販売の需要が高いのではないかと考えられたからである。

図1が属性別にみたリスク認識結果である。



男より女が、若年層よりも高齢層が、健康が良好な者よりも通院中の者が、ネット販売を利用している者よりも利用していない者が、最寄りの薬局へは時間がかかる方が、薬の副作用は経験がある方が、市部よりも村部がリスクがあると認識している。大きな差が見られるのは性別、年代とネット販売の利用度である。

図2 属性別利便性認識得点



利便性認識に関しては、どちらかというリスク評価とは反対の傾向が見られる（図2）。男、若年層、健康が良好、ネット販売を利用する方、市部に利便性評価が高い。特に大きな差は年代とネット販売利用である。副作用経験に関してはほとんど差がない。最寄りの薬局までの距離はリスク認識と同様に遠い方に利便性認識が高いという結果が得られた。

## 結果 2 重回帰分析結果

続いて、同じ独立変数を用いてリスク認識に関する重回帰分析を行うと、性別とネット販売を利用しているかが関連があり、年代、健康状態、薬による副作用の経験の有無、薬局までの時間、そして市町村の別は関連が認められなかった（表 2）。

表 2 リスク認識得点に関する重回帰分析結果

独立変数	$\beta$	有意確率
(定数)		0
性別	0.145	0
年代	0.029	0.276
健康状態	0.046	0.058
ネット販売	0.228	0
薬局までの時間	-0.013	0.582
副作用経験	-0.031	0.189
市町村	0.038	0.111

同様に、利便性認識に関する重回帰分析結果では、年代とネット販売を利用しているかに関連が認められ、性別、健康状態、薬による副作用の経験の有無、薬局までの時間、そして市町村の別には関連が認められなかった（表 3）。

表 3 利便性認識得点に関する重回帰分析結果

独立変数	$\beta$	有意確率
(定数)		0
性別	-0.028	0.247
年代	-0.052	0.059
健康状態	-0.058	0.023
ネット販売	-0.16	0
薬局までの時間	0.026	0.29
副作用経験	0.002	0.932
市町村	-0.049	0.049

よって、調査前に想像されたような薬局の利用可能性の違い、副作用経験の有無、市部と山間部の相違ということはネットによる薬販売に対する意識にあまり対して影響がないことがわかった。

また、本調査の最後の問「インターネットなどによる販売を通して、薬を購入したいと思うか」に関し

ては「購入したいと思わない」が 52.2%と半数に及ぶ。そこで、その質問のカテゴリーを「5 購入したい 4 場合によっては購入したいと思う 3 なんともいえない・わからない 2 あまり購入したくない 1 購入したいとは思わない」と得点化し、先ほどの変数にリスク認識、利便性認識を加えて同じく重回帰分析を行うと、表 4 のような結果になった。

表 4 ネットによる薬に対する購入意欲

独立変数	$\beta$	有意確率
(定数)		0.000
性別	-0.021	0.300
年代	-0.109	0.000
健康状態	0.057	0.005
ネット販売	-0.248	0.000
薬局までの時間	0.044	0.031
副作用経験	0.003	0.888
市町村	0.008	0.685
リスク認識	-0.292	0.000
利便性認識	0.266	0.000

つまり、市町村別は関連が認められないが、薬局までの時間は関連が認められ、時間がかかる方が購入意欲が強いことがうかがえる。危険認識と利便認識は非常に強い関連が認められ、リスク認識が低いと、また、利便性認識が高いと購入意欲が高かった。

意識が実際の行動と結びつくかはわからないが、現時点では一般人に判断基準や情報がないので、購買行動決定に比較的大きな影響を与えられと考えられる。

### 結果 3 一般人と薬剤師の認識の比較

本調査では、松本市の薬剤師(薬局の意向を尋ねるために、1店につき1人の代表の薬剤師に回答をしてもらった)にも意見を尋ねているので、最後に、一般世論と薬剤師の薬のネット販売についての意見の相違を見てみよう。

その結果、一般人薬剤師の性、年代が異なっているが、薬剤師の方が一般よりリスク評価が高く、利便性評価が低いことがわかる(図 3、図 4)。



図3 一般と薬剤師の薬のネット販売に関するリスク評価

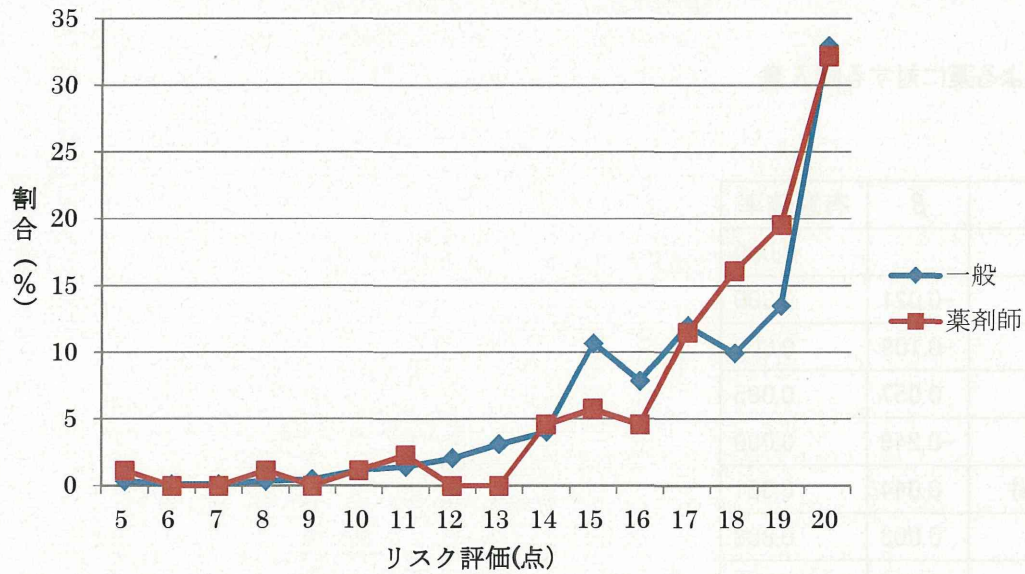
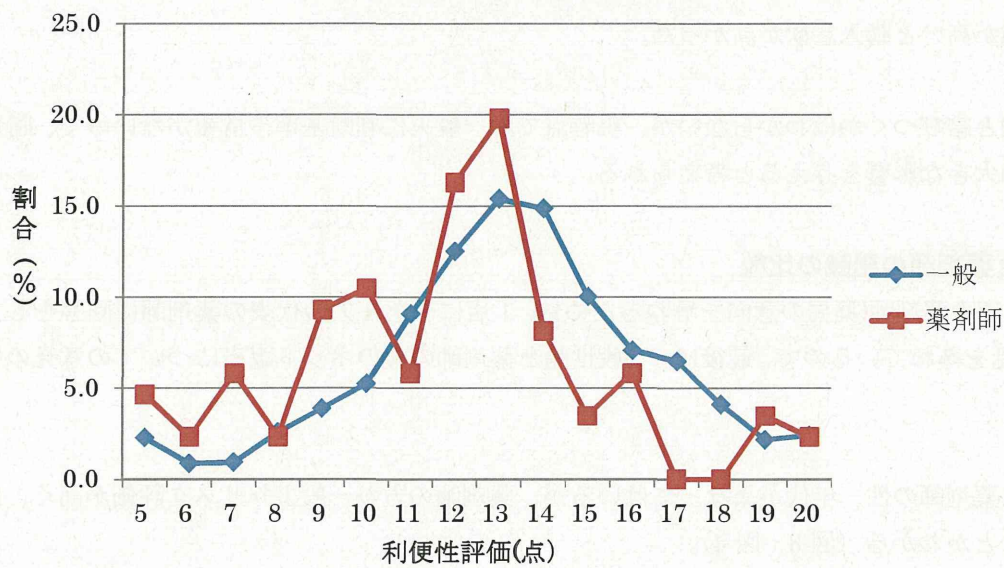


図4 一般と薬剤師の薬のネット販売に関する利便性評価



今後の政策決定に関しては専門家は自らの偏向度を認識しておく必要がある。他方、一般人は、専門家よりもリスク認識が甘いことも認識すべきである。

## 結論

一般用医薬品に関しては、そもそも薬が市販されているという認識があるためか、安全性に対する信頼が大きいと考えられる。したがって、薬のネット販売という形に対しては、若干のリスク上昇への懸念はあるが、それほど大きなものではなく、むしろ利便性への要求でその是非が論じられるようである。特に、現時点ではネットでの商品購入の経験が、意見を決定しているようである。

また、一般の利便性欲求は強いものがあるが、専門家がリスクを一般より慎重に評価することは当然であり、一足飛びの全面解禁には時間をかけてもよいと思われる。





(全員の方にお尋ねします)

この1年間における、薬(薬局・ドラッグストア・スーパーなどで購入できる医薬品)の利用についてお伺いします。

問7 あなたはふだん、どこで薬を購入しますか。  
最もよく利用するものを1つに絞ってお答えください。

- ① 薬局
  - ② ドラッグストア・スーパーなど
  - ③ 配置薬(置き薬)を利用する
  - ④ 通信販売・インターネット
  - ⑤ その他( )
  - ⑥ 購入していない
- 問8、9、10へ
- 問10(下)へ

問8 (問7で①~⑤とお答えの方へお尋ねします)

よく利用する理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて挙げてください。(該当する番号の左側に○印をお付けください)

- |                          |                    |
|--------------------------|--------------------|
| <input type="checkbox"/> | ① 近くて便利            |
| <input type="checkbox"/> | ② このお店へ行くと決めている    |
| <input type="checkbox"/> | ③ 相談しやすい薬剤師や専門家がいる |
| <input type="checkbox"/> | ④ 値段が安い            |
| <input type="checkbox"/> | ⑤ お店へ行くのが面倒        |
| <input type="checkbox"/> | ⑥ その他( )           |

問9 (問7で①~⑤とお答えの方へお尋ねします)

どのような薬を購入されましたか。主なものを3つまで挙げてください。

- |               |            |
|---------------|------------|
| ① かぜ薬         | ⑨ ビタミン剤    |
| ② 解熱・痛みどめ     | ⑩ 漢方薬      |
| ③ せき止め        | ⑪ 貼り薬(湿布等) |
| ④ 目薬          | ⑫ 痔の薬      |
| ⑤ 胃腸薬         | ⑬ 水虫の薬     |
| ⑥ 育毛剤         | ⑭ 湿疹・肌荒れの薬 |
| ⑦ アレルギー薬(鼻炎等) | ⑮ その他( )   |
| ⑧ 消毒薬         |            |

(全員の方にお尋ねします)

問10 あなたのお宅には、「配置薬」(置き薬)がありますか。

- ① ある → 問11、12へ
- ② ない → 問12へ(次のページへ)

問11 (問10で「① ある」とお答えの方にお尋ねします) 使用頻度はどれくらいですか。

- ① 週に1~2回
- ② 月に2~3回
- ③ 月に1回程度
- ④ 数か月に1回程度
- ⑤ 半年に1回程度
- ⑥ 年に1回程度
- ⑦ その他( )

(全員の方にお尋ねします)

問12 あなたは、薬(薬局・ドラッグストア・スーパーなどで購入できる医薬品)を用いた際、副作用など体調への影響があったことがありますか。

- ① ある → 問13、14、15、16へ  
② ない → 問16(次のページ)へ

問13 (問12で「① ある」とお答えの方にお尋ねします)

どのような薬を用いた際に、副作用など体調への影響がありましたか。次の中からあてはまるものをすべて挙げてください。(該当する番号の左側に○印をお付けください)

- |                          |               |                          |            |
|--------------------------|---------------|--------------------------|------------|
| <input type="checkbox"/> | ① かぜ薬         | <input type="checkbox"/> | ⑨ ビタミン剤    |
| <input type="checkbox"/> | ② 解熱・痛みどめ     | <input type="checkbox"/> | ⑩ 漢方薬      |
| <input type="checkbox"/> | ③ せき止め        | <input type="checkbox"/> | ⑪ 貼り薬(湿布等) |
| <input type="checkbox"/> | ④ 目薬          | <input type="checkbox"/> | ⑫ 痔の薬      |
| <input type="checkbox"/> | ⑤ 胃腸薬         | <input type="checkbox"/> | ⑬ 水虫の薬     |
| <input type="checkbox"/> | ⑥ 育毛剤         | <input type="checkbox"/> | ⑭ 湿疹・肌荒れの薬 |
| <input type="checkbox"/> | ⑦ アレルギー薬(鼻炎等) | <input type="checkbox"/> | ⑮ その他      |
| <input type="checkbox"/> | ⑧ 消毒薬         |                          | ( )        |

問14 (問12で「① ある」とお答えの方にお尋ねします)

その原因と思われる薬を、どこで購入しましたか。次の中からあてはまるものをすべて挙げてください。(該当する番号の左側に○印をお付けください)

- |                          |                  |
|--------------------------|------------------|
| <input type="checkbox"/> | ① 薬局             |
| <input type="checkbox"/> | ② ドラッグストア・スーパーなど |
| <input type="checkbox"/> | ③ 配置薬(置き薬)       |
| <input type="checkbox"/> | ④ 通信販売・インターネット   |
| <input type="checkbox"/> | ⑤ その他( )         |

問15 (問12で「① ある」とお答えの方にお尋ねします)

その際、まずどこに相談されましたか。

- ① 購入したお店(実際のお店)  
② 購入した通信販売元  
③ 購入以外の薬局やドラッグストア・スーパーなど  
④ 病院・診療所  
⑤ 家族や知人  
⑥ 医薬品メーカー  
⑦ インターネットで調べた  
⑧ その他( )  
⑨ 相談していない(理由: )

(全員の方にお尋ねします)

問16 副作用について、次のA～Gそれぞれにつき、あなたのお考えに最も近い番号に○をお付けください。

		そう思う	どちらかと言えは そう思う	どちらかと言えは そう思わない	そう思わない
A	副作用が出るのは特異体質の人だけだと思う	①	②	③	④
B	人によって、または病気の状況によって副作用は出ると思う	①	②	③	④
C	たくさんの種類や量の薬を飲むと、副作用は出ると思う	①	②	③	④
D	薬はその病気にだけ作用する訳ではないので、ある程度の副作用は仕方ないと思う	①	②	③	④
E	重篤な病気に使う薬の場合は、ある程度の副作用は仕方ないと思う	①	②	③	④
F	病気を治すためなら、ある程度の副作用は仕方ないと思う	①	②	③	④
G	副作用はあってはならないと思う	①	②	③	④

問17 あなたは、薬についてわからないことや困ったことがあった場合、どこへ相談や問い合わせをしますか。次の中から主な相談先を2つに絞ってお答えください。

- ① 購入したお店 (実際のお店)
- ② 購入した通信販売元
- ③ 購入以外の薬局やドラッグストア・スーパーなど
- ④ 病院・診療所
- ⑤ 家族や知人
- ⑥ 医薬品メーカー
- ⑦ インターネットで調べる
- ⑧ その他 ( )
- ⑨ 相談しない (理由: )


問18 あなたは、薬の服用方法などについて説明してもらう時、どんな方法がわかりやすいと思いますか。次のA～Dそれぞれにつき、あなたのお考えに最も近い番号に○をお付けください。

		よくわかる	どちらかと言えば わかりやすい	どちらかと言えば わかりにくい	わかりにくい
A	お店で直接説明してもらう	①	②	③	④
B	テレビ電話で説明してもらう	①	②	③	④
C	電話で説明してもらう	①	②	③	④
D	インターネット等の記事を自分で読む	①	②	③	④

問19 それでは、どんな方法が信頼できると思いますか。  
次のA～Dそれぞれにつき、あなたのお考えに最も近い番号に○をお付けください。

		信頼できる	概ね 信頼できる	やや 不安がある	不安がある
A	お店で直接説明してもらう	①	②	③	④
B	テレビ電話で説明してもらう	①	②	③	④
C	電話で説明してもらう	①	②	③	④
D	インターネット等の記事を自分で読む	①	②	③	④

問20 薬のインターネットなどによる販売について、次のA～Jそれぞれにつき、あなたのお考えに最も近い番号に○をお付けください。

		そう 思う	そう 思えば どちらか と	そう 思わ ない	ど ち ら か と	そ う 思 わ な い
A	購入者の状態（顔色などの身体状況）がわからないため、適切な薬を選択する機会が失われ、安全性や有効性が確保できない	①	②	③	④	④
B	薬の安易な購入や、大量購入による中毒などの危険性が増す	①	②	③	④	④
C	医療機関への受診が必要な際も、薬剤師など専門家から購入者へのアドバイスの機会がなくなってしまう	①	②	③	④	④
D	副作用や飲み合わせなどについて疑問があった際に相談できない	①	②	③	④	④
E	結果として、違法ドラッグや偽薬（にせ薬）が広まるなどのリスクが高くなる	①	②	③	④	④
F	薬を購入する利便性が高まる一方、危険も伴うが、自己責任であり認めても問題ない	①	②	③	④	④
G	お店での対面販売と同様に、適切な薬の選択や安全性を確保できる	①	②	③	④	④
H	離島やへき地などでの利便性が高まる	①	②	③	④	④
I	足が不自由などの理由で、買い物に行けない方々の利便性が高まる	①	②	③	④	④
J	販売履歴のデータ収集・蓄積が容易なので、適切な販売を行うための仕組みとして有用である	①	②	③	④	④



問21 あなたは、インターネットなどによる販売を通して、薬を購入したいと思いますか。

- ① 購入したいと思う
- ② 場合によっては購入したいと思う
- ③ あまり購入したくない
- ④ 購入したいとは思わない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

問22 薬に関する相談や説明、インターネット販売などに関してご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

<ご協力ありがとうございました>

一般用医薬品における専門家の  
意識と実態に関する調査  
報告書(抄)

- I 調査の設計
- II 調査の概要
- III 質問ごとの内容
- IV 自由回答
- V 単純集計(省略)
- VI 調査票

# I 調査の設計

▽調査の目的

▽調査対象 薬剤師の在籍する松本市の薬局104

▽抽出方法 薬剤師名簿から抽出

▽調査時期 2013年2月1日～26日

▽調査方法 郵送

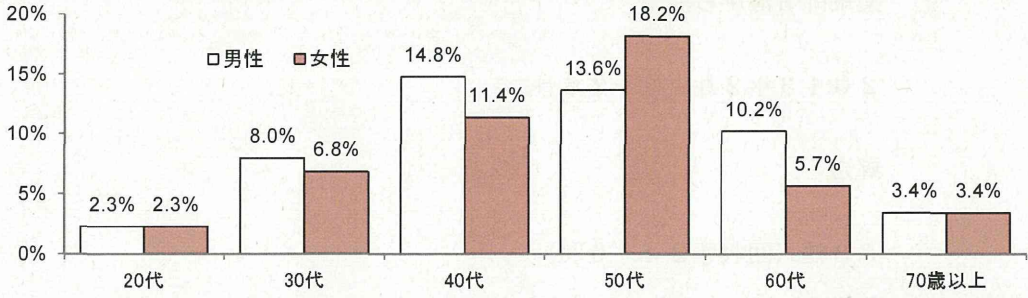
▽有効回収数 88件（回収率84.6%）

▽調査主体 埼玉県立大学

**回収サンプルの内訳**

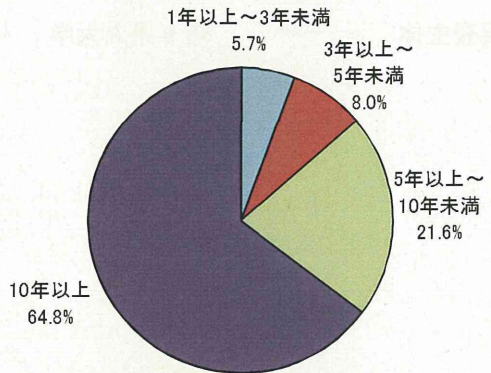
**【性別と年代】**

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	88	4	13	23	28	14	6
	100.0%	4.5%	14.8%	26.1%	31.8%	15.9%	6.8%
男性	46	2	7	13	12	9	3
	52.3%	2.3%	8.0%	14.8%	13.6%	10.2%	3.4%
女性	42	2	6	10	16	5	3
	47.7%	2.3%	6.8%	11.4%	18.2%	5.7%	3.4%



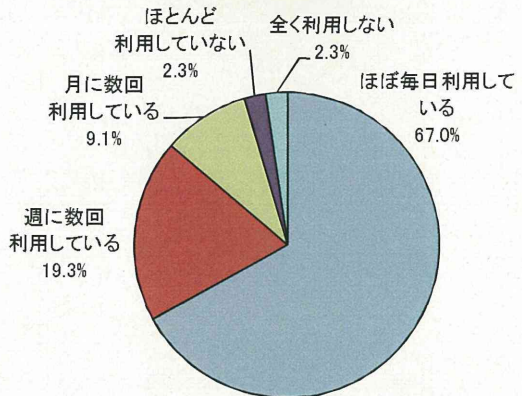
**【一般用医薬品の販売経験年数】**

1年未満	-	-
1年以上～3年未満	5	5.7%
3年以上～5年未満	7	8.0%
5年以上～10年未満	19	21.6%
10年以上	57	64.8%



**【インターネットの利用状況】**

ほぼ毎日利用している	59	67.0%
週に数回利用している	17	19.3%
月に数回利用している	8	9.1%
ほとんど利用していない	2	2.3%
全く利用しない	2	2.3%



**【インターネットで通信販売を利用】**

ほぼ毎日利用している	1	1.1%
週に数回利用している	3	3.4%
月に数回利用している	25	28.4%
ほとんど利用していない	24	27.3%
全く利用しない	35	39.8%

